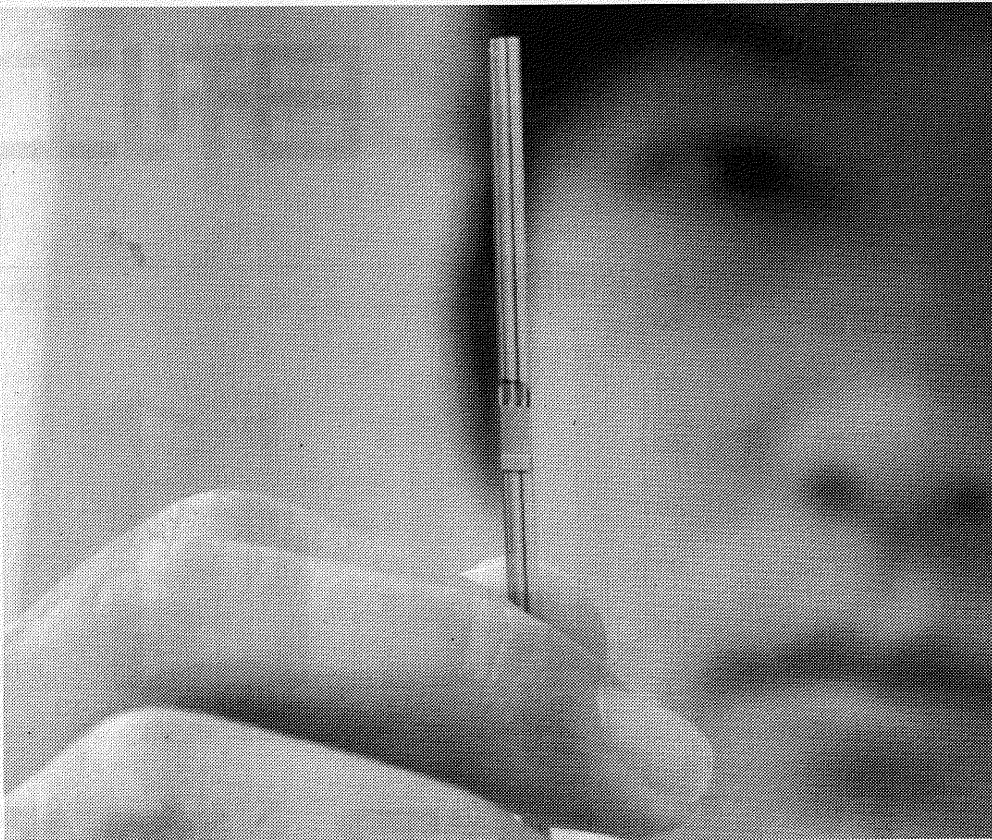


モノづくりを支える 町工場の技

★73★

直径0.125mmの
ガラス繊維「メタライズ
ファイバ」。1本ずつ金メ
ッキの状態を自視検査す
る(写真)。光ファイバー
通信用の変調器の光の入



ヒキフネ

出力部に使われる。変調器は湿気や外気の影響を抑えるため筐体のすき間をハンダでシーリングする。筐体から突出しているファイバーもハンダ付けできるよう、金メッキを施す必要がある。ここでヒキフネの微細メツ

直径0.125mm、1本ずつ金メッキ

キ技術が生きる。

金属の溶けたメッキ液に母材を浸し、電気を流して化学反応を起こして表面に金属を付ける。ガラスは非通電のため難しいが、樹脂へのメッキを応用し、薬液、設備や治具も工夫して方法を確立した。東京都葛飾区が運営する東四つ木工場ビルの作業所では繊維を取り付けた治具を手にした従業員が黙々と作業する。

メッキは顧客が指定した位置や長さの長さ0.5mm以内の誤差に抑えねばならない。鈴木昌史FP部長は「高精度でなければ変調器の信頼性に影響が出る。独自の治具でこの精度を実現した」と胸を張る。国内外約10社から受注しており、鈴木部長は「裝飾メッキ、機能メッキに次ぐ第3の柱に育てたい」と意気込む。

▽社長 石川英孝氏▽所在地 東京都葛飾区、03・3696・1981
▽売上高 約14億円(14年5月期)▽従業員 125人▽創業 32年(昭和)5月